

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600112		
法人名	社会福祉法人光進会		
事業所名	グループホーム光喜園		
所在地	熊本県菊池郡大津町大字室1713番地		
自己評価作成日	令和6年2月25日	評価結果市町村受理日	令和6年6月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/32/51070.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和6年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の「にっこり笑顔で私らしく、ほっこり幸せあなたと共に」を忘れず、施設にかかわるすべての方が笑顔で自分らしく、最後まで家族のように関わり、決して一人ではないと思って頂ける様に支援しております。施設の合言葉である「あなたのベクトルはどこを向いていますか」をそれぞれの職員が心に刻み、常に利用者中心にケアを行っています。利用者に今を楽しんで頂くために、様々なイベントを行ったり、ご家族にも安心して頂ける様に、毎月の状況を写真付きで報告しております。入浴は温泉を完備しており、温泉に浸かりながら、のんびりと過ごして頂いております。地域連携に関しては、令和5年度より少しづつですが交流も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは一年を振り返り「理念塾」を介して評価を行い、新年度に向けて新たなスタートを切るようにしている。介護業界全体の人手不足が叫ばれて久しいが、法人では事業所同士が互いを補い、入居者支援に不足が生じないように努力している。コロナ感染症の5類移行、中止していた夏祭りや地域交流を再開し、開設当初から育んできた学生との相互交流の復活は入居者の生活をより豊かなものとしている。支援学校へ職員の名刺作成を依頼することで、生徒自身のモチベーションにも繋がっている。当地域には古き面影を残した旧街道が走っており、入居者には馴染みある菓子(銅銭糖)や甘藷、人参などの農作物を差し入れてもらいながらふるさとの話に花が咲くなど地域の一員としての生活を送っている。運営推進会議への地域からの協力は継続されており、多方向からの意見が今後のホーム運営に活かされるものと期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の思いを形にした理念を作製する。その思いを忘れない様1年に回の施設勉強会で理念塾を開催し理念についての話を 行い、職員の介護に対する方向性を見失わずケアにあたるようにしている。又、理念は朝礼や会議の時に唱和行い、毎日の介護で実践出来るよう努めている。	法人の「あなたとともに」の精神を受け継ぎ、ホーム独自の理念を設けている。一年を振り返り開催する「理念塾」は理念の目指すべき役割について原点に立ち返るとともに、新たなスタートを切るようにしている。入職者にはオリエンテーションでホームの歩みを通して理念を伝えている。	新年度初回の運営推進会議で、参加者に向け改めて理念を紹介されることも良いと思われる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和5年9月に夏祭りを5年ぶりに開催し地域の方々と交流をすることが出来た。その他、交流に関しては今年度より運営推進会議を再開して地域の方々との交流ができています。	久しぶりに開催された法人主催の夏まつりには地域の関係者や家族が参加して、入居者もひと時を楽しまれている。地域の中学生による職場体験や高校生の調理の実施体験などを受入れ、開設当初より交流のある支援学校の行事(ふれあいサンデー)に入居者とともに 出向き、学生との相互交流を継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は運営推進会議を開催し地域の方々と交流を行った。又、地域の中学生の職場体験を積極的に受け入れ、認知症への理解や支援の方法、地域貢献が出来るよう努力している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は運営推進会議を開催し地域の方々と交流を行った。会議内で事故事例の報告・外出行事の報告を行い、研修内容ではソフト食の試食やeスポーツ等の体験をしていただき、意見交換や地域との交流を行っている。	本年度から対面での直接開催に移行しており、行政をはじめ包括センターや地域の代表者、ホームと交流のある学校関係者、協力医療機関や家族等、多様な人材や機関の協力が得られている。地域密着型特養との合同会議として互いの情報はホーム運営にも反映されている。参加者からはコロナ感染症の5類移行後の自宅待機の期間等に対する質問や平均寿命と健康寿命の定義について教えて欲しいとの声があがっている。	地域の代表者や各関係機関が一堂に会する機会であり、各機関や個人が有する専門性を生かし、ミニ講和の時間を工夫したり、地域防災について行政から話を聞くなど更なる進展が期待される。また、身体拘束についても研修会をはじめホームの取組を発信されることが期待される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、施設運営やケアサービスの取り組みについて相談を行ったりと連絡している。メールや電話などでのやり取り、地域での研修会等も積極的に参加している。	行政には毎回運営推進会議に参加してもらう他、相談事に応じてもらいながら事故報告書等については速やかに提出している。各研修案内を受けて職員が積極的に参加し、認定調査時には入居者の普段の様子を見てもらい言葉を捕捉しながら立ち会うようにしている。地域包括の福祉祭りに参加して良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、年2回勉強会を行い知識の研鑽に努めている。グループホームとしては、夜間の玄関施錠を除いては、原則、行きたい時に行きたいところに行ってもらい支援しており、身体拘束をしないケアはできている。	年2回法人研修を実施しており、初回の研修は3回に分けて開催し、全員が受けられるように工夫している。身体拘束の具体例を全員で共有した後、チェックリストによる自己評価の機会をもっている。新聞やテレビ報道であった実例や言葉の使い方については普段から話し合うようにしており、職員が一人で抱え込むことがないように管理者やユニットリーダーはいつでも相談に応じるようにしている。	身体拘束はもちろん虐待防止についても早期より取り組んでおり、指針については玄関内の目に付く所に掲示して、ホームの姿勢を発信されることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても年2回施設研修内で勉強会を開催し、無理しない介護やチームとして他の職員にお願いしやすい、発言しやすい環境づくりに努め、介護職員が孤独にならない様に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度については、年1回の勉強会を開催している。今後は、必要性がある方等が出てきた場合は、それらを活用しながら支援を行って行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、介護報酬の改定などの際は丁寧に説明したうえで、同意書に記入していただき、合わせて質問などを受け付けている。また、遠方のご家族様には郵送や電話連絡を行い、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見や要望に対する検討と迅速な対応に努めている。面会時に意見や要望があれば職員で情報を共有し、対応している。	家族の面会時には入居者の普段の様子を伝えながら意見を求めているが、「何もありません」との返事が殆どなのである。入居者の要望は食事や外出のことを話しかけながら答えを引き出すようにしている。	今後、職員が必要と思う内容から検討したものを「家族アンケート」として、依頼することも必要と思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談などで職員の抱える心配事等の把握に努めながら、理念に沿った意見や提案は積極的に取り入れる環境づくりに努めている。	職員会議が必ずしも月1回開催できない場合もあるが、ユニットで様々な課題(特にケア)について検討しており、職員の意見や要望が出しやすい雰囲気づくりに努めている。ホーム内の研修時には担当職員が講師役として進行することで意識向上にもつながっている。希望休や有休などは職員の要望に沿い、法人が資格取得の後押しを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考査や目標管理の面接を行い、昇給の検討や、個々のやりがいにつながる研修を紹介するなど、モチベーションアップにつなげている。研修案内なども作り、職員の得意分野を後押しするように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、施設内研修を行っている。ユニットで、研修講師を持ち回りして、教える側に立つことでの自己学習も推し進めている。又、資格取得時の貸付、施設外研修や受講情報の案内等のサポートが行われている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村が開催する同業者の研修会等へ積極的に参加し、情報の交流を図りながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。今後はICTを活用されている他施設の見学を行い、取り入れていきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所検討の訪問の際、ご本人様と話をし、性格や生活歴を聞いたうえで、本人の要望や困りごとを聞き、安心して生活していただけるよう努力を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点で、ご家族様とゆっくり話を行っている。入居の時点では、ご家庭の様子や今後の方向性について話している。身体拘束をしないので、当然いろいろなリスクがあることなども、すべて話して信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問の際、ご家族及び利用者の状況・お話しや表情、現在のサービス利用の状況を鑑みて、利用者様が現在どこで暮らすことが幸せなのかを考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、利用者を認知症と思わず、まずは「人」ということを考え行動するように話している。一家族と同じように対等の立場で接するように話している。又、馴染みの関係を築けるよう、イベントを計画し一緒に楽しめる環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お電話やお写真付きのお手紙を送付し、現在の表情など身近に感じて頂く努力をしている。面会時に近状報告したり聞き取りをしたりと関係を築ける努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との交流は併設の特養へ入居されている方々との面会をされており、ドライブで馴染みのある場所へ出掛けている。	ドライブの際には入居者に馴染みの阿蘇の山々を遠くに眺めながら出かけたり、地元の食材や古くからの手作り菓子（銅銭糖）の差し入れ、町ならではのさつま芋の話で盛り上がるなど、地域色豊かな支援が出来ている。入居者同士が偶然幼馴染であったり、法人施設に知人がいたり懐かしい出会いも生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者の行動や言動に留意し、職員が入り過ぎない様に努めている。仲がいい利用者同士を一緒に席に配置したり配慮している。なじみの関係で安心して過ごせる共同生活の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に行かれた利用者の所に面会に行ったり、昔ながらのなじみの関係がある利用者様をお連れしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から希望を聞いたり、普段の生活の中での表情などから楽しみや意向を読み取れるよう寄り添った支援を行っている。本人のペースに合わせた支援を心がけている。	入居者の思いは日常の生活の中で聞き取るようにしているが、外出先から帰園した際には、笑顔で「また行きたいね～」と喜びを表現されるようである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の過去のサービスの使用状況などを伺い、必要時は過去の利用施設に問い合わせ状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況や今できることなど、利用者を傷つけないように配慮しながら、出来ることはして頂くなどの役割を見出しながらケアを行っている。 利用者のやりがい作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在の状況をアセスメントしながらケアに当たっていき、本人・ご家族の思いを介護計画として作成している。	入居者を職員の担当制としているが、プラン作成には全員が関わり、気付きをケア会議や普段から提案している。意思疎通が難しくなった入居者が、ホームで楽しくすごす内容をあげ、食事の自力摂取を見守り、体の動きで排泄のサインを見極め、時間はかかるものの自尿に繋がる支援をあげている。入浴時には介助を受けながらも洗髪は昔取った杵柄を發揮し自身でされるなど生活歴が反映されている。本年度は行政による運営指導を受けており、プランについては一部日付けなどの不備について指導を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子は、職員の思いは入れず、ありのまま(利用者が言ったそのままの言葉)で記録するように指導している。重要なことは、申し送りなどを行い、職員で情報を共有し、家族にもお伝えするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や利用者からのご要望は、取り入れ検討し、出来るところから始めるように心がけている。本人を中心とした個別サービスの提供に務めながらサービスの多様化を柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園との交流や中学生の職場体験等を積極的に受け入れながらイベントやレクリエーション活動を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては、かかりつけ病院と施設で連携をしながら訪問診療を利用されている。専門医で必要な受診がある時は希望に沿えるよう配慮している。	協力医療機関による月1回の訪問診療や同機関の訪問看護を支援し、受診後何かあれば家族へ報告されている。専門医受診は職員が対応している。口腔ケアについては食後の歯磨きを声掛けや必要に応じて一部手伝いながら対応している。歯科は2か所の医療機関より希望や必要な方に口腔ケアや治療が行われ、職員は助言を受けたり相談を行いホームでのケアに活かしている。	受診は訪問診療や職員による対応がなされており、今後も受診結果については異常の有無に関わらず小まめに報告することで家族の安心や相談の機会にもつながると思われる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での気づきを職場内の看護師や訪問看護師へ報告する体制をとっている。必要であれば主治医へ報告し異常の早期発見に務めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関しては、直ぐに病院への情報提供が行えるよう書類を作成し更新している。また、地域連携室との連絡調整、情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時から重度化、終末期の施設方針を丁寧に説明し、本人、家族の意向を確認しながら協力病院、訪問看護、家族、地域等と連携しながらチームで寄り添った支援を行っている。	入居時に重度化や終末期に関するホームの方針を丁寧に伝え、本人・家族の意向を確認している。その時点では自然な形での最終を望まれる方が多く、必要に応じて話し合いの機会や主治医、訪問看護などの連携を図っている。家族の中には特養の申し込みをされている方もおられる。看取り支援に関する年1回の研修会の中でホームの方針を共有し、家族や職員ともに後悔の無い支援を大切にしており、開設時からの入居者など昨年2名の最終を支援している。その際は感染症対策を施し居室での面会も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、実践できるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練は行っており、今後は、BCP策定に伴い、感染や自然災害等への訓練を予定している。又、地域との協力体制について市町村とやり取りを行い、体制作りに取り掛かりたいと思っており、今後、相談をしていく予定。	年2回入居者も参加した昼・夜を想定し火災避難訓練を実施している。6月に実施した際は消防署の協力が得られている。備蓄についてはリストをもとに災害用と感染症用を確保しており、BCPについては策定が済み、今月末には全体での訓練が予定されている。	今後は家族や地域の協力を得た訓練や消防団への働きかけを期待したい。また、コンセンの埃やホーム周辺の確認など、安全チェックについては日誌の中に項目を設ける事も記入しやすいかと思われる。ユニット入口などの暖簾については、防災への対応がなされているか再度確認を期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の勉強会を行い、本人の自尊心を傷つけない対応には、特に気を付けるように職員には話を行っている。認知症の前に一人の人だと言うことを徹底している。	認知症に関する勉強会を通し、一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮した対応について職員間で共有を図っている。管理者は認知症により判断に時間を要する場面があることを十分理解し、待つ姿勢、自己決定を促す工夫についても伝えている。呼称は苗字にさん付けを基本としているが同姓の場合には下の名前でも対応している。写真掲載など個人情報の使用については、家族等の承諾を得ており、職員の守秘義務についても入職時の指導や研修会の中で周知徹底が図られている。	身だしなみへの支援として、今後は衣服の移動販売なども取り入れ、服を見る事でおしゃれへの気持ちをサポートしていきたいとしている。取組に期待したい。玄関内に置かれた面会、検温チェック簿については、個別記入が望ましいと思われる。検討いただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すべての行動は、ご本人に確認してから行うように心がけている。認知症により判断が難しそうな場合は、2択にして自己決定を促すなどの工夫を行っている。認知症により判断に時間がかかる事もあるので、待つことも大切である事を指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくその方のペースに合わせた介護を行っている。施設内の行動については、自由に行動して頂いている。一部、入浴の希望や施設外の散歩に行きたい利用者に対し、職員が少ない時は、希望に沿えず待つ頂く事はある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は化粧をされたり、お洋服を選ばれたり、おしゃれを気にされている方もおられ、整容などの声掛けを行い、出来る方はご自分でして頂いている。今後は洋服の移動販売等も取り入れ購入しなくても洋服を見る機会を設けていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事作りをしたり、食べたい物を聞き、時にはテイクアウトを行う事もある。家庭的な雰囲気での食事に努めている。今後は農園や花壇を設置し一緒に収穫し、旬の野菜を一品提供できるように考えています。	現在、ご飯と汁物はホームで、主菜・副菜などは業者によるチルド食を使用している。時にはホームクッキングの日としてちらし寿司やお好み焼き、ちゃんぽん、ケーキなどを作り誕生会で提供している。人参やさつま芋など家族からの差し入れは料理やおやつ時にふかし芋で提供し喜ばれている。食形態は嚥下力に応じてキザミやお粥も準備しており、昨年度嚥下機能・口腔ケアについて研修会も行われている。こぼしがちな方に使用するエプロンについては、家庭的な雰囲気に配慮したタオルで対応するユニットも見られた。	職員は持参した弁当と1名が検食を取っており、入居者の代弁者として味や量、気づきなど今後に活かされることを期待したい。今後農園や花壇を活用し、入居者と一緒に野菜作りに取り組み季節の一品として活用していきたいとしている。実現が期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量のチェックはしていませんが、水分量INの確認が必要な利用者様に関しては、チェックを行っています。こまめに水分提供し促している。又利用者の嗜好も頭に入れ、時にはご自分のお好きな物の提供をすることもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本は、本人さんに声掛けし、歯磨きをしていただいています。難しい方に関しては、一部お手伝いをすることもあります。訪問歯科により口腔内検査も実施しており助言や相談にもものっていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方々に合ったタイミングでの声掛けを行い、トイレ誘導を行っている。トイレでの排泄を動作訓練と考え、出来る部分を引き出せるように介護を行っている。	個々に応じた声掛けや誘導が行われている。布パンツやリハビリパンツ、テープ式オムツなどの用品が適切か、パット併用の必要も個別に検討している。家族が排泄用品を購入し持参される場合は、参考になるよう状況を伝えている。夜間ポータブルトイレを使用される方には使いやすさや安全な設置場所を検討し、洗浄など清潔な管理について共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	きな粉ヨーグルト・ミルミル・ジョア・オリーブオイル・オリゴ糖・牛乳等と色々な食材を使用し、その中から利用者に合った食材を見つけ出す工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉の使用上、午前と午後の使用制限はあるものの、基本、すべての利用者様に入浴の有無をたずね入浴介助を行っている。気分が乗らなかったり無理強いしない様、時間や別日に調整しながら実施している。入居者様の重度化もあり機械浴も実施しているので毎日入浴出来ていないが一日おきの入浴を実施している。	入浴は午前中を中心に週3回、ホーム内の個浴や温泉付き大浴場の他、身体状況に応じ法人特養施設の機械浴も活用されている。入浴前には希望を確認し無理なく入ってもらえるようにしている。シャンプー類は全員備わった物を使用されており、中には以前の経験から自分で洗髪をされる方もおられるようである。季節湯の支援として取り入れた晩白柚風呂は大きな実が浮かび大変喜ばれている。	浴室は清潔に管理されており、今後はシェーバーや洗剤など安全面に配慮し別の場所で管理されることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お手伝いして頂いている入居者が疲れた時は無理せず休息を取ったり、気分がのらない時は無理強いはいないようにしています。安眠に関しては、本人様のペースに合わせて気持ちよく眠れる様努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬情カルテを訪問薬剤師さんが毎回更新しており、職員はそれを確認して、状況の変化などに気を付けている。薬局との連携は密に取れており、新しい薬が追加になった時は、どこに気を付けたらよいかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の過ごしに張り合いがあり、喜びの日々となるよう、役割や楽しみを支援するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人が外に出たいというときは、基本、職員はついていだけで、行先は利用者にお任せしている。今年後は阿蘇神社参拝の外出を行い、外出先で家族の方々と会っていただいた。今後も外出の機会を増やし支援していく。	季節や入居者の体調に応じた敷地内の散歩は継続して取り組んでいる。同敷地内にある保育園児の散歩中や園庭から聞こえる賑やかな声は、入居者の外出への意欲に繋がっている。コロナ5類移行後は状況をみながら少しずつ外出の幅を広げており、数名ずつ大津町のドライブや1月末には修復された阿蘇神社参拝も実現している。また入居者自宅のバラ園見学は大変喜ばれたようである。今後も入居者の外出の機会を増やしていきたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に同意書を頂き、3000円までご自分で保管できる体制を作っている。ご自分で保管されている利用者に関しては、お金を数えられたりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族の方に電話したいと希望ある時は繋いでいる。また知人からお便りが来られた方に返事を出すか希望を聞き、希望あれば返事を出せるように準備やお手伝いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるようその時々にあった飾りつけに変更したり、居心地の良い空間作り、なじみの関係作りに努めている。	ユニット内の空間はそれぞれの職員が工夫し、季節に応じた飾りつけや作品を掲示しており、訪問当日はひな祭りの壁面が貼られ、来月は桜などを作成する予定である。書初めをはじめ入居者の作品も掲示されており励みに繋がっていると思われる。リビング食堂の席は、身体状況や相性などを考慮しており、テーブルの配置もその時々で検討している。フロアの掃除は日々職員が取り組んでいるが、モップ掛けを手伝われる方もおられるようである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内では、利用者が好きなときに散歩に行かれたり、テレビを視聴されたり、カラオケに行かれたりと、思い思いに過ごされる事で、ご自分の居場所の提供を行っている。また、利用者同士で、話をされているときなどは、関係性を見極めながら、必要なときに間に入るなどの対応を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ私物を持ってきていただけるようにお話している。居室は、火気や動物の持ち込み以外は、何でも持ってきていただけるように話している。私物に囲まれ心穏やかに生活して頂け得るように配慮している。	自宅で使用していた家具や本人にとって馴染みの品などを持参して欲しいと伝えており、パンフレットにも使い慣れた物について、例が記されている。以前は家具類も持ち込まれていたが、近年収納用には軽めの衣装ケースが多くなっている。タンスやテレビ、家族の写真の他、仏壇、位牌、遺影などを持ち込まれている方もおられるが、必要な品のみですっきりとした部屋を見られた。居室内の掃除や衣替えを含め、衣類の管理などは現在職員が行っている。	感染症対策の継続から家族が居室へ入る事は控えており、室内の様子については今後も小まめに報告することで安心につながるものと思われる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれの状況を理解したうえで、出来ることをして頂き、自立した生活が送れるように寄り添った支援をしている。職員は、出来ない部分の一部を介助するのみで、しすぎないように気を付けている。また、利用者の行動を見極め、テーブルの配置やソファの配置をその都度変更することで、安全な空間を提供している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の思いを形にした理念を作製する。その思いを忘れない様1年に回の施設勉強会で理念塾を開催し理念についての話を行い、職員の介護に対する方向性を見失わずケアにあたるようにしている。又、理念は朝礼や会議の時に唱和行い、毎日の介護で実践出来るよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和5年9月に夏祭りを5年ぶりに開催し地域の方々と交流をすることが出来た。その他、交流に関しては今年度より運営推進会議を再開して地域の方々と交流ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は運営推進会議を開催し地域の方々と交流を行った。又、地域の中学生の職場体験を積極的に受け入れ、認知症への理解や支援の方法、地域貢献が出来るよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は運営推進会議を開催し地域の方々と交流を行った。会議内で事故事例の報告・外出行事の報告を行い、研修内容ではソフト食の試食やeスポーツ等の体験をしていただき、意見交換や地域との交流を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者とは、施設運営やケアサービスの取り組みについて相談を行ったりと連絡している。メールや電話などでのやり取り、地域での研修会等も積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、年2回勉強会を行い知識の研鑽に努めている。グループホームとしては、夜間の玄関施錠を除いては、原則、行きたい時に行きたいところに行ってもらい支援しており、身体拘束をしないケアはできている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についても年2回施設研修内で勉強会を開催し、無理しない介護やチームとして他の職員にお願いしやすい、発言しやすい環境づくりに努め、介護職員が孤独にならない様に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見人制度については、年1回の勉強会を開催している。今後は、必要性がある方等が出てきた場合は、それらを活用しながら支援を行って行く。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、介護報酬の改定などの際は丁寧に説明したうえで、同意書に記入していただき、合わせて質問などを受け付けている。また、遠方のご家族様には郵送や電話連絡を行い、説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見や要望に対する検討と迅速な対応に努めている。面会時に意見や要望があれば職員で情報を共有し、対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談などで職員の抱える心配事等の把握に努めながら、理念に沿った意見や提案は積極的に取り入れる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考査や目標管理の面接を行い、昇給の検討や、個々のやりがいにつながる研修を紹介するなど、モチベーションアップにつなげている。 研修案内なども作り、職員の得意分野を後押しするように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、施設内研修を行っている。ユニットで、研修講師を持ち回りして、教える側に立つことでの自己学習も推し進めている。 又、資格取得時の貸付、施設外研修や受講情報の案内等のサポートが行われている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村が開催する同業者の研修会等へ積極的に参加し、情報の交流を図りながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。今後はICTを活用されている他施設の見学を行い、取り入れていきたい。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所検討の訪問の際、ご本人様と話をし、性格や生活歴を聞いたうえで、本人の要望や困りごとを聞き、安心して生活していただけるよう努力を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの時点で、ご家族様とゆっくり話を行っている。入居の時点では、ご家庭の様子や今後の方向性について話している。身体拘束をしないので、当然いろいろなリスクがあることなども、すべて話して信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問の際、ご家族及び利用者の状況・お話しや表情、現在のサービス利用の状況を鑑みて、利用者様が現在どこで暮らすことが幸せなのかを考え対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員には、利用者を認知症と思わず、まずは「人」ということを考え行動するように話している。一家族と同じように対等の立場で接するように話している。又、馴染みの関係を築けるよう、イベントを計画し一緒に楽しめる環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お電話やお写真付きのお手紙を送付し、現在の表情など身近に感じて頂く努力をしている。面会時に近状報告したり聞き取りをしたりと関係を築ける努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの人との交流は併設の特養へ入居されている方々との面会をされており、ドライブで馴染みのある場所へ出掛けしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に利用者の行動や言動に留意し、職員が入り過ぎない様に努めている。仲がいい利用者同士を一緒に席に配置したり配慮している。なじみの関係で安心して過ごせる共同生活の構築に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に行かれた利用者の所に面会に行ったり、昔ながらのなじみの関係がある利用者様をお連れしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から希望を聞いたり、普段の生活の中での表情などから楽しみや意向を読み取れるよう寄り添った支援を行っている。本人のペースに合わせた支援を心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の過去のサービスの使用状況などを伺い、必要時は過去の利用施設に問い合わせ状況の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の状況や今できることなど、利用者を傷つけないように配慮しながら、出来ることはして頂くなどの役割を見出しながらケア行っている。 利用者のやりがい作りに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在の状況をアセスメントしながらケアに当たっていき、本人・ご家族の思いを介護計画として作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子は、職員の思いは入れず、ありのまま(利用者が言ったそのままの言葉)で記録するように指導している。重要なことは、申し送りなどを行い、職員で情報を共有し、家族にもお伝えするようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や利用者からのご要望は、取り入れ検討し、出来るところから始めるように心がけている。本人を中心とした個別サービスの提供に務めながらサービスの多様化を柔軟に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園との交流や中学生の職場体験等を積極的に受け入れながらイベントやレクリエーション活動を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては、かかりつけ病院と施設で連携をしながら訪問診療を利用されている。専門医で必要な受診がある時は希望に沿えるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での気づきを職場内の看護師や訪問看護師へ報告する体制をとっている。必要であれば主治医へ報告し異常の早期発見に務めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関しては、直ぐに病院への情報提供が行えるよう書類を作成し更新している。また、地域連携室との連絡調整、情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時から重度化、終末期の施設方針を丁寧に説明し、本人、家族の意向を確認しながら協力病院、訪問看護、家族、地域等と連携しながらチームで寄り添った支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、実践できるよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練は行っており、今後は、BCP策定に伴い、感染や自然災害等への訓練を予定している。又、地域との協力体制について市町村とやり取りを行い、体制作りに取り掛かりたいと思っており、今後、相談をしていく予定。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の勉強会を行い、本人の自尊心を傷つけない対応には、特に気を付けるように職員には話を行っている。認知症の前に一人の人だということを徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	すべての行動は、ご本人に確認してから行うように心がけている。認知症により判断が難しそうな場合は、2択にして自己決定を促すなどの工夫を行っている。認知症により判断に時間がかかる事もあるので、待つことも大切である事を指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべくその方のペースに合わせた介護を行っている。施設内の行動については、自由に行動して頂いている。一部、入浴の希望や施設外の散歩に行きたい利用者に対し、職員が少ない時は、希望に沿えず待つ頂く事はある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は化粧をされたり、お洋服を選ばれたり、おしゃれを気にされている方もおられ、整容などの声掛けを行い、出来る方はご自分でして頂いている。今後は洋服の移動販売等も取り入れ購入しなくても洋服を見る機会を設けていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事作りをしたり、食べたい物を聞き、時にはテイクアウトを行う事もある。家庭的な雰囲気での食事に努めている。今後は農園や花壇を設置し一緒に収穫し、旬の野菜を一品提供できるように考えています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量のチェックはしていませんが、水分量INの確認が必要な利用者様に関しては、チェックを行っています。こまめに水分提供し促している。又利用者の嗜好も頭に入れ、時にはご自分のお好きな物の提供をすることもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本は、本人さんに声掛けし、歯磨きをしていただいています。難しい方に関しては、一部お手伝いをすることもあります。訪問歯科により口腔内検査も実施しており助言や相談にもものっていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方々に合ったタイミングでの声掛け行い、トイレ誘導行っている。トイレでの排泄を生活動作訓練と考え、出来る部分を引き出せるように介護行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト・ヤクルト・牛乳等と色々な食材を使用し、その中から利用者に合った食材を見つけ出す工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温泉の使用上、午前と午後の使用制限はあるものの、基本、すべての利用者様に入浴の有無をたずね入浴介助を行っている。気分が乗らなかったり無理強いしない様、時間や別日に調整しながら実施している。入居者様の重度化もあり機械浴も実施しているので毎日入浴出来ていないが一日おきの入浴を実施している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お手伝いして頂いている入居者が疲れた時は無理せず休息を取ったり、気分がのらない時は無理強いしないようにしています。安眠に関しては、本人様のペースに合わせて気持ちよく眠れる様努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬情カルテを訪問薬剤師さんが毎回更新しており、職員はそれを確認して、状況の変化などに気を付けている。薬局との連携は密に取れており、新しい薬が追加になった時は、どこに気を付けたらよいかを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の過ごしに張り合いがあり、喜びの日々となるよう、役割や楽しみを支援するようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人が外に出たいというときは、基本、職員はついていくだけで、行先は利用者にお任せしている。今年後は阿蘇神社参拝の外出を行い、外出先で家族の方々と会っていただいた。今後も外出の機会を増やし支援していく。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に同意書を頂き、3000円までご自分で保管できる体制を作っている。ご自分で保管されている利用者に関しては、お金を数えられたりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族の方に電話したいと希望ある時は繋いでいる。また知人からお便りが来られた方に返事を出すか希望を聞き、希望あれば返事を出せるように準備やお手伝いを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるようその時々にあった飾りつけに変更したり、居心地の良い空間作り、なじみの関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット内では、利用者が好きなときに散歩に行かれたり、テレビを視聴されたりと、思い思いに過ごされる事で、ご自分の居場所の提供を行っている。また、利用者同士で、話しをされているときなどは、関係性を見極めながら、必要なときに間に入るなどの対応を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ私物を持ってきていただけるようにお話している。居室は、火気や動物の持ち込み以外は、何でも持ってきていただけるように話している。私物に囲まれ心穏やかに生活して頂け得るように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者それぞれの状況を理解したうえで、出来ることをして頂き、自立した生活が送れるように寄り添った支援をしている。職員は、出来ない部分の一部を介助するのみで、しすぎないように気を付けている。また、利用者の行動を見極め、テーブルの配置やソファの配置をその都度変更することで、安全な空間を提供している。		